

02-1 例えば20枚1組の“画像”と“説明”でslide showをするなら・・・

まずHTMLの<img>及び<form>の初期値で「最初の画像」と「説明」を提示し、JavaScriptで「ボタン操作などに従って画像と説明を切り替える手順」を記述すればOKです。

用紙(form)には「進む」・「戻る」ボタンと説明表示欄が必須で、加えて切替間隔(秒数)が指定可能な自動再生機能などがあると「より便利」でしょう。

従って、今回の脚本(script)には、1組の何か(短文、dataなど)を扱う仕組み(Array:配列・画像の場合はImage)及び一定時間ごとにある処理を行う仕組み(+それを解除する仕組み)が新たに必要になります。

02-2 最初の画像はHTML(通常のwebページの記述方法)で、また題目=最初の説明はformの初期値として提示

最初の画像はHTML(:img/は「imgフォルダ内」)で(・nameは画像切替用=通常は不要)、また説明=題目はformの要素[5]の初期値として表示します。

02-3 Arrayなどは要作成

配列やImageは「必要時に作成」します。まずnew Array()「画像」及びその要素のnew Image()「画像[i]」を作成し、fileの所在(img/)とファイル名(0~20.jpg)を属性srcとして代入しておきます※。

※これが「src変更による画像入替」の伏線=下準備。

「説明」はnew Arrayを作成した上で、その内容を「””括弧、区切り」で0内に個別に指定します※。

※ここまでは読み込み時に自動実行。

02-4 「進む/戻る」ボタン

各ボタンには「クリックで画像と説明の連番を増減する機能」を設定します。

例では、「表紙用の画像(-1.jpg)と説明=題目は起動時のみ提示される」よう、増減後の値が枚数を超えたら0、0未満になったら枚数-1(=19)を代入しています。

02-5 「実行間隔指定」の設定と解除

「一定時間毎の実行」はsetInterval命令で指定します。関数「自0」で実行される「要素[3]の値(単位はミリ秒)毎の関数次0の実行」の指定は変数「時」に代入され、formの[停止]ボタンで実行されるclearInterval(時)で解除されます。

関連情報：<http://mmua.html.xdomain.jp/bak/itc/index.htm>

```

<title>画像提示</title><!-- saved from url=(0008)about:internet -->
<form>
  <input type="button" value="戻る" onClick=前()>
  <input type="button" value="進む" onClick=次()>
  <input type="button" value="自動" onClick=自()>
  <input type="text" size="1" value="6">秒間隔(変更は
  <input type="button" value="停止" onClick=clearInterval(時)>
  <input type="text" size="80" value="ある修行時代の印象(全20枚)">
</form>

<script>
  番号=-1;枚数=20;画像=new Array()
  for(i=0;i<枚数;i++){画像[i]=new Image();画像[i].src="img/"+i+".jpg"}
  説明=new Array("0.ハケ岳縦走@華の1年","1.助さん@学園祭","2.英語camp@山中寮",
  "3.旅行→留学@焦りの2年","4.Rioの前衛的なビルと","5.黒いオルフェの橋",
  "6.空気が薄かったCuzco","7.Indioの子たち","8.Machu Picchu","9.Niagaraの滝",
  "10.-20℃になるSUNY@OSWEGO","11.春浅いcentral park","12.受験票@悟りの4年",
  "13.助手採用@27歳で","14.教員の端くれに。","15.その間もITCに参加@北辰寮",
  "16.クルーゾー警部@drama camp","17.大学生ITC@八王子を手伝ったり",
  "18.通訳もどきをしていたら","19.研究員@国研が決まりましたとき(ITC追コン)。")
  function 次(){番号++;if(番号==枚数)番号=0
  document.forms[0].elements[5].value=説明[番号]
  document.画.src=画像[番号].src}
  function 前(){番号--;if(番号<0)番号=枚数-1
  document.forms[0].elements[5].value=説明[番号]
  document.画.src=画像[番号].src}
  function 自(){時=setInterval('次()',document.forms[0].elements[3].value*1000)}
</script>
  
```

ボタンのクリックで各関数を実行。

function 自()で設定された内容を代入した変数「時」の解除。

読み込時に textarea に題目↑を、頁内にサブフォルダ img 内の-1.jpg を「画」という名前で提示します(前者は form の、後者は html の機能)。

img/は「サブフォルダ」。

1増で=枚数になったら番号に0を代入。  
1減で0未満になったら枚数-1に再指定。

頁に表示される「説明」とname=画の画像を[番号]に対応するそれらに入れ替える。

「要素[3]の値毎に関数'次()'を実行」指定を変数「時」に代入←clearInterval(時)で解除。

資料4 “画像とその説明”を順次提示する手順などを指示するJavaScriptの例



資料5 資料4の内容の実行結果

- ④Array(配列)やImage(画像)は使用時に作成(宣言)し、規則的なら自動で、不規則なら個別に指定。
- ⑤一定時間毎の自動実行はsetInterval(関数,間隔)で。